

(2020年度)

「健康食品領域研修認定薬剤師」申請のための論文記述要領

神戸薬科大学エクステンションセンター

論文作成にあたっての注意点

(論文タイトル)

更新申請者は3年間での活動において経験した健康食品に関する事例に基づく
薬剤師としての調査研究から作成

例：尿酸値を低下させる機能性表示食品の消費者庁届出論文を用いた機能性評価の
比較に関する薬学的視点に基づく研究

例：健康食品利用者の購入動機調査とお薬手帳の利用度の関連について

(論文作成)

論文様式（3000字程度を目安）

（緒言、方法、結果、考察、結論）あるいは（序論、本論、結論）

なお、参考文献・資料及び図表は、文字数には含まない。

（学術誌等から図表を引用する場合は、各図表の下に引用した出典を記載）。

用紙サイズ：A4判縦型（横書き、30文字×40行）

フォント：MS明朝体、11～12ポイント。英数字は半角入力。

(論文記載内容)

1. 3年間での薬剤師としての活動において経験した健康食品に関する事例のなかで、今回のテーマを選択した理由を緒言あるいは序論に明記する。
2. 今回の調査研究を今後の薬剤師としての活動にどのように活かしていくのかを考察する。
3. 新規性がどこにあるかを記載する。
4. 学術論文を引用し、その内容と今回の研究内容とを比較した薬剤師としての視点に基づく考察を記載する。
5. 根拠が明確でないインターネット上の情報の引用は避ける。

1. 原稿の作成（原稿は、原則としてパソコンで次の要領で作成してください。）

原稿：論文様式 約3,000字程度（緒言、方法、結果、考察、結論）

あるいは（序論、本論、結論）

なお、参考文献・資料及び図表は、文字数には含まない。

（他誌から図表を引用する場合は、各図表の下に引用した出典を明記すること）

用紙サイズ：A4判縦型（横書き、30文字×40行）

フォント：MS明朝体、11～12ポイント。英数字は半角入力とします。

2. 論文の体裁

論文は、次のものからなります。1) 表紙、2) 緒言あるいは序論、3) 方法、4) 結果・考察あるいは本論、5) 結論、6) 参考文献・資料
表紙を1ページとして、用紙下部にページ番号を記入します。

(1) 表紙：

表題（タイトル）、申請者名とその所属機関名を和文にて記載。

所属機関がない場合は省略します。

表題は、できるだけ簡潔に、助詞は一つに固執にないで多く当てはめて選択
申請者は、下段に連絡先（住所、電話、FAX番号、E-mailアドレス）を記載。

(2) 緒言 あるいは 序論：250字から300字程度で表題に関する説明等を記述
します。例えば、

1) 問題の性質、重要性

2) これまでの背景：直接関係する文献を引用（考察で引用する場合は簡潔に）

3) 問題が残されている範囲

4) 本論文のアウトライン

(3) 方法：緒言で記述した内容の検討に用いた方法を記述します。

序論と本論のスタイルで記述する場合は方法を記述しないことがあります。

1) 医薬品名は一般名とする。ただし、配合剤は除く。商品名を記載した場合はタイトル及び本文の最初に出てくる箇所に、「一般名(商品名)」の形で記載します。ただし、論文の内容によって必要な場合は、商品名を記載しても差し支えありません。

2) 外国（語）の固有名詞、薬品名、地名は欧文活字体(原語)を使用します。

緒言あるいは序論、方法、結果、考察あるいは本論、結論でしばしば繰り返される語は略語を用いても差し支えありません。初出時に用語を記載し、以下に略語を用いることを明記します。略語による薬品名は大文字を用いること。外国語の読み方がそのまま日本語化しているものはカタカナ書きでも可能です。

「記載例」

院内感染制御チーム：(Infection Control Team: ICT)

中心静脈栄養法：(Total Parenteral Nutrition: TPN)

(4) 結果・考察（あるいは結果と考察に分ける）あるいは本論

1) 結 果

(ア)検討により得られた結果を客観的に記載する。

(イ)図、表があればそれを用いながら記述します。

(ウ)系統立てて明確に説明することが難しい場合は、小項目に分けて記述することも可能です。ただし、小項目間のつながりに十分考慮します。

2) 考 察

(ア)できるだけ、主観的主張を抑えて、今回得られた結果とこれまでの報告を対比しながら考察します。

(イ)本研究で明確になったことが何か、研究の目標が何かを十分考慮しながら記述し、今回の研究の限界についても簡潔に記述します。

あるいは

本 論

(ア)序論で紹介された内容を詳述します。

(5) 結 論

箇条書き形式かそれに準ずる書き方で、論文のまとめを簡潔明瞭に記述します。

(6) 参考文献・資料：

参考文献は、雑誌掲載論文、単行本、インターネット等からの引用とします。

引用順に本文該当部の右肩に番号を片カッコで小さく^{1~2)}と書き、本文の最後に一括して番号順に整理して記します。参考資料は印刷物とすることを原則とするが、やむを得ずインターネットから参考資料とする場合は、公的機関のホームページものが望ましいです。

〈参考文献・資料の記載方法〉

- 1) 雑誌の場合は、①著者名、②論文題名、③雑誌名、④巻数、⑤頁数、⑥発行年の順に記す。

「記載例」(和文誌の場合)

垂水千恵、松岡小百合、岡田裕実春、真霜昌裕、由井 瘰、福田美和：
応用薬理，**93**：29－37（2017）。

「記載例」(欧文誌の場合)

Sunagawa Y., Okamura N., Miyazaki Y., Shimizu K., Genpei M., Funamoto M., Shimizu S., Katanasaka Y., Morimoto E., Yamakage H., Komiyame M., Satoh-Asahara N., Wada H., Suzuki M., Hasegawa K., Morimoto T.: *Biol. Pharm. Bull.*, **41**: 504-509 (2018).

「記載例」(電子ジャーナルの場合)

Lown M., Fuller R., Lightowler H., Fraser A., Gallagher A., Stuart B., Byrne C., Lewith G.: *PLoS One*, **12**, e0172239 (2017).

- 2) 単行本の場合は、①著者名、②書名、③版数および巻数、④編集者名、⑤出版社、⑥発行地、⑦発行年(西暦)、⑧頁数の順に記します。

「記載例」

柏原典雄：第5章 経腸栄養剤，栄養薬理学，田中芳明、中村 強編，建帛社，東京，2016，p117-163.

- 3) インターネットから得た資料の場合は、①発行機関名または著者名、②表題名、③URL④アクセス日時の順に記載します。

「記載例」

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所：「健康食品」の安全性・有効性情報. <https://hfnet.nibiohn.go.jp>, 2019年7月1日アクセス

- 4) その他の出版物の場合

「記載例」

厚生労働省医薬・生活衛生局食品基準審査課長、厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課長：プエラリア・ミリフィカを含む健康食品の取扱いについて，薬生食基0713第1号，薬生食監0713第2号（2017年7月13日）

厚生科学研究：「健康食品」の安全性・有効性情報データベースを活用した健康食品の安全性確保に関する研究 平成27年度総括・分担研究報告書、主任研究者：梅垣敬三，（2016年3月）

以 上